令和３年度(2021年度)　第２回いじめ防止対策委員会（報告）

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　2021.12.23、15:00～、於：校長室

１　開会

２　校長挨拶

　　本年もいよいよ締めくくりの時期です。１年間、生徒・保護者・職員への面談等、お世話になりました。ＳＣのサポートを受けて、無事に希望する就職先への進路実現を果たすことができた生徒もいました。一方で、近年不登校傾向の生徒が増えている。学校で具体的なトラブルがあったわけでもなく、学校が嫌いなわけでもないのに足が向かずに遠ざかってしまう生徒への対応で、教員も戸惑っている状況がある。そういう視点で、この会議でも御助言をお願いしたい。

３　出席者紹介

４　学校説明

（１）前回会議以降の取組について（報告）

（２）生徒の現状について

（３）今後の取組について

５　協議

（１）前回会議以降の「いじめの可能性がある事案」について

①アンケート結果や本人・保護者からの訴え、学年等から把握したいじめの可能性がある事案は**３件**。いずれも、１２月３日（金）に実施した熊本県「心のアンケート」より把握した事案で、以下の通り。

　　　○「いじめ」に該当する事案の体験が「ある」との回答数　　　　　　**３件**

1. ２件　ａなぐられたり、蹴られたりした（マーク１）

　　　　　　　　ｂその他（用もなく名前を呼ばれてからかわれた）（マーク１）

1. １件　ｃ仲間はずしにされた（マーク１）

　ｃ皆から無視された（マーク１）

　　　○その「相手」は、ａは「学校の先生」、ｂとｃは「他のクラスの同級生」。

○その「いじめ」に該当する事案が「今も続いている」との回答数　　　**０件**

②「スクールサイン」への連絡については、「いじめの可能性がある事案」が１件あったが、上記①ｂの案件であり生徒指導部で双方に聞き取り後指導してもらっている。

　【協議結果】　①と②の３件について協議した。いずれの事案も現在は収束しており訴えた生徒のストレス度合いも小さく「いじめ事案」とはしないが、引き続き経過観察を続けていくことを全会一致で確認し、了承された。

（２）新型コロナウイルス感染症に係る不安や悩み等の調査結果（Ｒ３第２回）について

【資料】熊本県教育庁　学校安全・安心課よりの通知文から

　　今回の調査結果では、不安や悩みを抱えている児童生徒の割合は、前回より５ポイント減少した。悩みや不安があると回答した児童生徒については、全校種依然として「新型コロナウイルス感染症のこと」（感染の恐れや不安等）が多い状況である。また、中学校で５５人、高等学校で７人、特別支援学校で３人の生徒が「いじめのこと」について不安であると回答している。現時点においても、新型コロナウイルス感染症の感染状況については予断を許さない状況にあり、社会生活や学校生活における制限等は児童生徒に対して、心理的な負荷を与え続けていることが推測される。各学校においては、このような状況を十分考慮し、担任・授業担当者等による丁寧な児童生徒の観察及び短時間での面談等の適宜実施やアンケートによるストレスチェックなど、積極的な児童生徒理解に努めるとともに、ＳＣ、ＳＳＷの活用（ストレス対処教育やＳＯＳの出し方に関する教育の充実）及び保護者との緊密な連携を図って教育相談体制の一層の充実にも努めていただきたい。

６　指導助言と意見交換

○状況把握はしっかりとできており、よく取組んでおられると感じる。面談を通じて、集団への漠然とした「居づらさ」から疎外感を感じ、「なじめない」生徒が増えているように思う。そうした生徒に対しては、居場所づくり等の環境を整えてあげる必要がある。ＳＣとしても、今後さらにサポートしていきたい。（衣川）

○「地域若者サポートステーション」については、生徒や保護者、教職員にも周知されていない実態がある。本人や保護者の同意がなくても、就労にむけて行政機関につなぐことができるしくみで、更なる効果も期待される。（校長）

【資料】中途退学者等への切れ目のない支援に係る好事例について（通知）

　本県においても熊本市、玉名市、八代市に「地域若者サポートステーション」がありますので、中途退学者等への支援のひとつとして、必要に応じて活用ください。

〈事例紹介〉高知県「若者はばたけネット」という情報把握システムについて

「（高知県の）県立学校等においては、本人や保護者の同意を得ることなく、中途退学者等の個人情報を各高等学校等が県教育委員会を通じてサポステに提供することが可能となり、中途退学者等への切れ目のない支援が効果的に実施されています。」

７　閉会